



建築物総合環境計画概要書 新築

■使用評価マニュアル:「CASBEE大阪みらい 新築」2018年版 (v.1.2.1) ■使用評価ソフト:「CASBEE大阪みらい 新築」2018年版 (v.1.2.1)

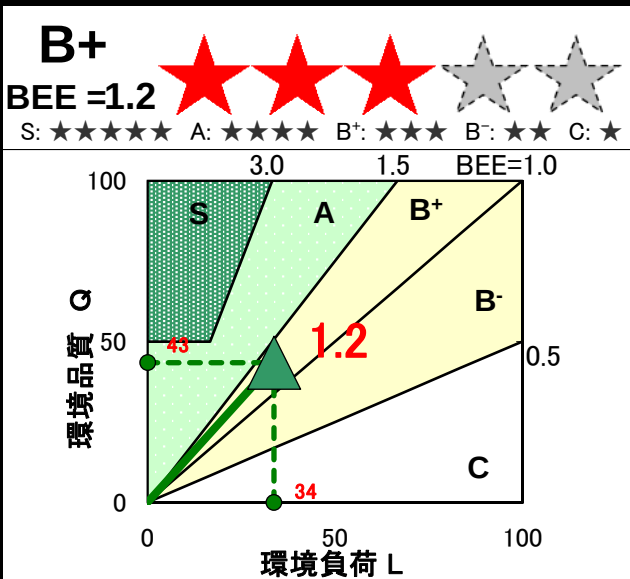
1-1 建物概要

建物名称	(仮称)福島区玉川3丁目 計画		
建設地	福島区玉川3丁目		
建築用途	共同住宅		
建築主			
設計者			
敷地面積	530.31	m ²	
建築面積	438.31	m ²	
延床面積	3,918.48	m ²	
構造/階数	RC造	/	地上11階
完了年(予定)	2022年2月		

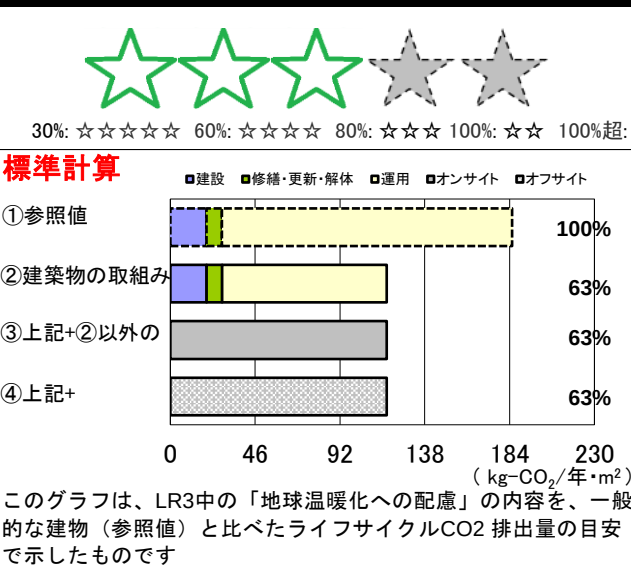
1-2 外観



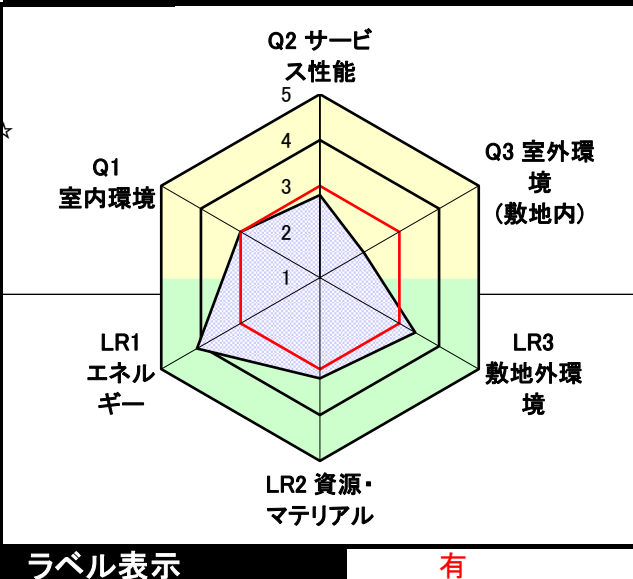
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



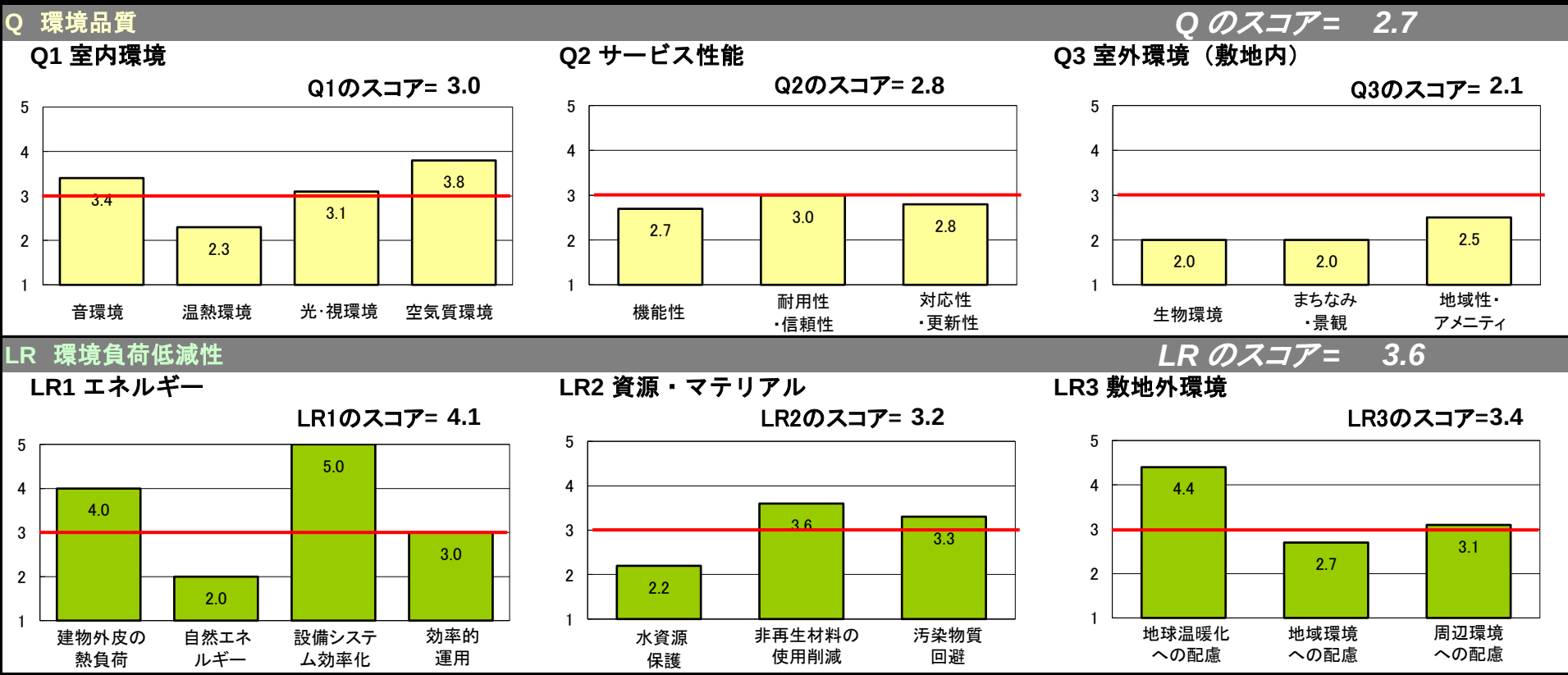
2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合 自然光を十分取り込めるよう計画し、自然エネルギーの活用と、省エネ機器の採用により環境負荷の低減を図るとともに、快適な室内環境の確保と建物の維持管理にも配慮した計画としている。		その他 特に無し
Q1 室内環境 開口部は、採光が十分確保できる大きさとし、高遮音性能とすることで、豊かな居住環境となるように配慮した。	Q2 サービス性能 耐用年数の長い配管材料を採用し維持管理の配慮に努めたほか、将来のプラン変更等に対応できるように階高を高く設定した。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内には可能な限り緑化を設け、また道路沿いに樹木を計画することで、周囲に溶け込む建物となるように配慮した。
LR1 エネルギー LED照明を採用し、建物の省エネルギー化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル 省資源化に配慮し、躯体及び躯体以外にはリサイクル材を採用したほか、断熱材にはODP及びGWPが低いものを使用した。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ を低く抑えることにより、長年にわたり環境負荷を軽減し地球温暖化の防止に付与できる建物となるように配慮した。

建築物環境性能表示 結果〔重点評価〕

総合評価BEE = 1.2

ラベル表示



環境性能	評価点
(1)CO ₂ 削減	4.0
CO ₂ 削減に配慮した環境性能	概要記入欄
LR3/ 1 / /	地球温暖化への配慮 4.4
配慮事項	建物内に設置する機器はLEDなどの高効率機器を採用し、運用時の環境に配慮しつつ、「建設」「修繕・更新・解体」時に発生するCO ₂ を低く抑える計画とした。

環境性能	評価点
(2)みどり・ヒートアイランド対策	3.0
みどり・ヒートアイランド対策に配慮した環境性能	概要記入欄
Q3 / 1 / /	生物環境の保全と創出 2.0
Q3 / 3 /3.2/	敷地内温熱環境の向上 3.0
LR3/ 2 /2.2/	温熱環境悪化の改善 3.0
配慮事項	敷地内には可能な限り緑化を計画した。

環境性能	評価点
(3)建物の断熱性	4.0
CO ₂ 削減に配慮した環境性能	概要記入欄
LR1/ 1 / /	建物の熱負荷抑制 4.0
配慮事項	過半の住戸が断熱等性能等級4を満たす。

環境性能	評価点
(4)エネルギー削減	5.0
CO ₂ 削減に配慮した環境性能	概要記入欄
LR1/ 3 / /	設備システムの高効率化 5.0
配慮事項	建物全体の一次エネルギーの消費量を抑制。省エネ基準を満たしている（BEIm=1.0以下）

省エネルギー基準計算結果

基準
適合状況

※ 外皮性能については、住宅部分が等級4（相当）以上、非住宅部分が1.0以下であること
※ 一次エネルギー消費量については、建物全体のBEI、BEImが1.0以下であること（新築時）
（基準適合義務がある部分については、その部分のBEI、BEImが1.0以下であること）

外皮性能 住宅部分（品確法等級） 等級4（相当） 非住宅部分[BPI][BPIIm] -

一次エネルギー消費量 建物全体[BEI][BEIm] 0.75 住宅部分[BEI] 0.75 非住宅部分[BEI][BEIm] -

再生可能エネルギー利用設備導入検討シート（太陽光発電設備用）

1 設備導入の検討	
① 周辺環境の把握	
② 日照条件の検討	
ア 検討対象とする場所	■ 屋根部 地上高さ (34) m □ 地上部 (□ 空地部分 □ その他) □ 壁面 □ その他 ()
イ アの周囲における日射遮蔽物	■ なし □ あり 方位 () 高さ (約) m 水平距離 (約) m 方位 () 高さ (約) m 水平距離 (約) m 方位 () 高さ (約) m 水平距離 (約) m 方位 () 高さ (約) m 水平距離 (約) m 方位 () 高さ (約) m 水平距離 (約) m
ウ 日照の確保 (冬至)	■ 十分 □ 不十分
③ 日照条件に適合する場所の検討	
ア 設置可能面積等	(288.0) m ² 方位 (南) 設置角度 (30) 度
イ 設置可能太陽光パネル面積	(115.2) m ²
ウ 設置可能容量	(17.3) kw
エ 利用設備に対する荷重対策	□ あり ■ なし
オ 設置に備えた対応	■ なし □ あり (例：設備用基礎の設置) ()
④ 導入判断	
検討結果 □ 導入する →具体的な検討を行い、実際に設置する設備概要を 2 に記入 ■ 導入しない	
導入を見送る理由（複数選択可） □ 日照が確保できない □ 躯体が荷重に対応できていない □ 敷地内に設置する場所を確保できない ■ 費用負担が大きい □ 本計画では見送るが、将来対応可能とする □ その他 ()	
2 導入する設備の概要	
ア 太陽光パネル面積	() m ²
イ 発電容量	() kW
備考	
注 2ア 太陽光パネル面積が、1③イ 設置可能太陽光パネル面積と大きく異なる場合、備考欄にその理由を記入してください。	

1 設備導入の検討

② 日照条件の検討

ア 検討対象とする場所	☒ 屋根部 地上高さ（ 34 ）m ☐ 地上部 （ ☐ 空地部分 ☐ その他 ） ☐ 壁面 ☐ その他 （ ）																				
イ アの周囲における日射遮蔽物	☒ なし ☐ あり <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>方位</td><td>（ ）</td><td>高さ（約 ）m</td><td>水平距離（約 ）m</td></tr> <tr> <td>方位</td><td>（ ）</td><td>高さ（約 ）m</td><td>水平距離（約 ）m</td></tr> <tr> <td>方位</td><td>（ ）</td><td>高さ（約 ）m</td><td>水平距離（約 ）m</td></tr> <tr> <td>方位</td><td>（ ）</td><td>高さ（約 ）m</td><td>水平距離（約 ）m</td></tr> <tr> <td>方位</td><td>（ ）</td><td>高さ（約 ）m</td><td>水平距離（約 ）m</td></tr> </table>	方位	（ ）	高さ（約 ）m	水平距離（約 ）m	方位	（ ）	高さ（約 ）m	水平距離（約 ）m	方位	（ ）	高さ（約 ）m	水平距離（約 ）m	方位	（ ）	高さ（約 ）m	水平距離（約 ）m	方位	（ ）	高さ（約 ）m	水平距離（約 ）m
方位	（ ）	高さ（約 ）m	水平距離（約 ）m																		
方位	（ ）	高さ（約 ）m	水平距離（約 ）m																		
方位	（ ）	高さ（約 ）m	水平距離（約 ）m																		
方位	（ ）	高さ（約 ）m	水平距離（約 ）m																		
方位	（ ）	高さ（約 ）m	水平距離（約 ）m																		
ウ 日照の確保（冬至）	☒ 十分 ☐ 不十分																				

ア 建築物の用途	共同住宅
イ 熱需要対象用途	☒ 冷房 ☒ 暖房 ☐ 給湯 ☐ その他（ ）
ウ 設置可能面積	(288.0) m ²
エ 概算年間熱利用量	(626,998) MJ/年
オ 利用設備に対する荷重対策	☐ あり ☒ なし
カ 設置に備えた対応	☒ なし ☐ あり (例：設備用基礎の設置) ()

検討結果 ☐ 導入する →具体的な検討を行い、実際に設置する設備概要を 2 に記入

■ 導入しない

導入を見送る理由（複数選択可）

☐ 日照が確保できない

☐ 年間を通じて安定した熱需要がない

☐ 躯体が荷重に対応できていない

☐ 敷地内に設置する場所を確保できない

☒ 費用負担が大きい

☐ 本計画では見送るが、将来対応可能とする

☐ その他（ ）

ア 集熱パネル面積	() m ²
イ 概算年間熱利用量	() MJ/年
ウ 熱需要対象用途	☐ 冷房 ☐ 暖房 ☐ 給湯 ☐ その他 ()

備考
